

## 空飛ぶ漁師「カワウ」と付き合う

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-06-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 坪井, 潤一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006903">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006903</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



## 空飛ぶ漁師「カワウ」と付き合い



(内水面研究部：坪井潤一)

鵜呑みにする、鵜の目鷹の目など、鵜のつく言葉からもわかるとおり、カワウは私たちの身近で暮らしてきた水鳥です。しかし絶滅が危惧された1970年代から一転、個体数急増により人間との間に軋轢が生まれています。カワウは1日に500gもの魚を食べるため水産被害が深刻化し、排泄物により樹木が枯死するといった森林被害も問題となっています。では、被害を減らすためにはどうすれば良いのでしょうか。ここでは、私が試行錯誤しながら編み出したカワウ被害軽減対策のうち、被害の発生現場で最も普及している「ビニルひも張り」を紹介します。

カワウの最大の特徴は群れをつくることです。樹上のねぐらで夜を過ごし、春になるとそこが繁殖コロニーになります。また、採食も集団で行うことが多く、放流直後の魚たちはカワウに見つかり、一網打尽にされてしまいます。ねぐらから採食場所までの距離は多くの場合10km未満です。そのため、アユの放流場所など被害の深刻な場所から10km圏外に、カワウのねぐらや繁殖コロニーを移動させることが水産被害軽減に有効な対策になります。つまり、カワウの数ではなく、群れの位置を管理するのです。

10km圏内のねぐらやコロニーの除去には、古新聞をしばる時などに使うビニルひもを使います。そのほか、釣竿、リール、糸、おもりがあれば、カワウのとまる大きな木にもビニルひもを張ることができます。張り方は次のとおりです。①木に向かって釣り竿をふりかぶり、おもりを木のてっぺんを通るように投げる②着地したおもりはずし、その

替わりにビニルひもを釣り糸に結ぶ③リールを巻くとビニルひもが木のシルエットに沿って手元に来る④ビニルひもを釣り糸からはずし、両端を周辺の木や岩に結びつけて完成です(図1)。木に張られたビニルひもは、河川敷を吹く風でビリビリという風きり音をたてながら小刻みに揺れるため、物理的な障害物としてだけではなく、聴覚や視覚にうったえることでカワウを嫌がらせます。

何だそれだけか、と思われるかもしれませんが、シンプルイズベスト。ビニルひも張りでねぐらや繁殖コロニーを除去できなかったことはありません。これまで、20ヶ所以上のねぐらやコロニーで除去の実績があります。現在も、全国各地でビニルひも張り実習を行っており、今後、さらに普及していくと期待されます。



図1. 800羽のカワウ繁殖コロニーで張られたビニルひも(2013年9月千葉県銚子市にて)

## 参考文献

坪井潤一(2013)空飛ぶ漁師カワウとヒトとの上手な付き合い方ー被害の真相とその解決策を探る(ベルソープックス). pp 138. 成山堂書店, 東京.